

「ワンヘルスフェスタ2023 in 筑後」が開催されました !!

令和5年10月15日（日）、筑後市にある「九州芸文館」で「ワンヘルスフェスタ2023 in 筑後」が開催されました。

「ワンヘルス」とは、「人の健康」「動物の健康」「環境の健全性」を一つの健康と捉えて一体的に守っていくという考え方です。

最初に、開会記念式典が行われ、江口勝福岡県副知事による主催者挨拶が行われました。来賓として、横倉義武日本医師会名誉会長、藏内勇夫アジア獣医師会連合（FAVA）会長等の挨拶が行われました。

その後、テープカットが行われました。



江口副知事



横倉名誉会長



藏内会長



秋田委員長

藏内会長

江口副知事

横倉名誉会長

西田筑後市長

松嶋みやま市長

【横倉義武日本医師会名誉会長：来賓挨拶】

この3年間、新型コロナウイルス感染症で、皆様方には大変なご苦勞をおかけいたしました。

医療に携わるものとしては、1日も早い疾患の改善ということに心がけて、いろんな努力をしてまいりました。国民の皆さん方のご努力によって、それも、ワクチンを早期に打っていただくということ、徹底していただいたおかげで、感染力が非常に落ちてきました。

こういう感染症は、動物から人に感染します。いわゆる野生動物が持っているウイルスが何らかの形で、人の飼っているペット等にうつり、そして人にうつり感染が広がってきました。人の健康を守るためには、動物の健康をしっかりとチェックしていく、そして、動物の健康を守っていくということが非常に大事になります。

そして、動物も人も、この地球という1つの星の上で暮らしています。星の健康を守ること、環境の健全性も守ろうということ、ワンヘルスの活動は進んでまいります。

最近、新しい概念として、「**プラネタリーヘルス**」という、これはロックフェラー財団の中で話が出て、今、「**惑星の健康を守るために**」という動きが出てきました。

これも、ワンヘルスに非常に繋がった話であります。今後、国際的にも、プラネタリーヘルス、ワンヘルスということが重要になってくるのではないかと思います。

もう1つ、最近、いろんなところで、「**ウェルビーイング**」という言葉をお聞きになると思います。「ウェルビーイング」というのは、1946年にWHOが「健康とは」という定義を決めました。

「ウェルビーイング」を考えていくと、この「ワンヘルス」とぴったりきます。

日本語では、「**持続する幸福か、継続する幸福**」ということ、1つの言葉として考えています。

この持続する幸福のためには、健康が大事であるし、そのほか心の安らぎとか、環境の整備ということが大事になります。

ウェルビーイングを実現するためには、ワンヘルスをみんながしっかり守っていく、ワンヘルスの考えをしっかりと実行していくということが重要ではないかと考えています。

(一部抜粋)



【藏内勇夫アジア獣医師連合会長：来賓挨拶】

2013年（平成25年）に、当時の日本医師会の横倉会長と私で「日本でワンヘルスをやろう」という話をしました。

今年でちょうど10年になります。あっという間の10年でしたが、この10年間で「ワンヘルス」は、福岡から世界中に広がりました。

福岡県で条例ができ、それを踏まえて国会の代表質問でも「ワンヘルス」が取り上げられました。その代表質問を経て、G7広島サミットでも、ワンヘルスについて明確に「アジアからのアプローチを推進する」ということが議論されました。

「ワンヘルス」は、持続可能な地球を残すため、次の時代の子どもたちにとって1番大事な、今我々がやらなければならない、責任を果たさなければならないということです。このことは非常に大事なことだと思っています。

今、福岡県はワンヘルスのいろいろな取り組みをされています。例えば、農業団体等のワンヘルス認証です。「あまおう」とか「博多ちどり」。これらは、福岡県の「ワンヘルス認証」を受けました。約500品目が認証されました。事業者で行くと7200です。

また、「ワンヘルスの取組を広げる」ということで、ワンヘルス宣言企業を作ろうということになりました。これは約2000社。全日空とかスーパーのイオンなどが福岡県の「ワンヘルス宣言事業者」として登録されました。

我々は、「ワンヘルス」というものを踏まえて、新しい時代のライフサイクルを作っていかなければならないと思います。その原点が筑後市であり、みやま市なんです。

服部知事が「福岡県はワンヘルスの聖地である」と言って世界に打って出ています。将来の子供のため、皆でこの綺麗な地球を残していこうではありませんか。

（一部抜粋）



2023年10月20日

福岡ワンヘルス協議会・事務局